

2025年度 学校評価シート(学校関係者評価)

武蔵野相愛幼稚園

外部評価委員 2名

内部評価委員 2名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

適切である。

教育目標の「満足するまで遊ぶ体験を重ねる」は、子どもたちにとって今しかできない大切な経験であると思うので、いろいろな遊びを通して、友達との関わり方や遊びのルールを自然に学び、心も体も成長していける貴重な経験を大切に続けてほしい。

特に「学校運営の8,園児募集」は、入園者数が減少傾向にあることから適切な設定である。また、「社会貢献の1,地域との連携」の設定も重要な項目であり、相愛幼稚園の輪を地域に広げていく取り組みが、人との関わりを深くし、先述の園児募集にも繋がるかもしれないと考える。

ただし、項目「5,情報」に関しては、今後、園の運営に重要な要素となり得るため、さらに具体的に記す必要がある。また「発信」ツールでもあるが、「評価と改善に向けて」に「応答」ツールとして運用する具体案が加わると尚良い。

2. 評価結果の内容は適切であったか

適切である。

以前から行われていることであるが、クラスの担任だけでなく、全ての保育者が全ての子どもの育ちを共有し支えていく体制を今後もより大切にして保育の質を高めていくことができるとうい。

保護者への対応については、様々な家庭が増えている中、園児だけでなく保護者、家庭にもしっかりと目を向けていただけている手厚さと安心感があり、素晴らしい。このような細やかさをアピールできると園児の増加にもつながっていくのではないかと考える。

「学校運営の7,保護者会・母の会・父の会」、「社会貢献の2,保育の公開」で評価の通り、保護者には子どもたちの園での姿や成長を感じられる機会が設けられており、貴重な時間を共有いただけていると共に保育現場に透明性があり、子どもを安心して登園させられる環境づくりがされていると考える。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切である。

保護者との信頼関係を深めるために、今まで通り、保護者一人ひとりに寄り添い、丁寧に声をかけ続けてほしい。

行事については、保護者も巻き込んだ行事を多く持つことで、幼稚園という環境、保育者、園児、保護者の関係が一層深まるのではないかと考えている。できれば皆が集まれる機会を増やしていくとよい。

少子化や働き方の変化など社会の変化による影響はあるが、その中だからこそできることや変わらない子どもの姿もあると感じる。園の教育目標に沿って、その時々に応じた子ども・職員・保護者・地域などとの関わりを引き続き大切にしていきたい。

項目「6,開かれた幼稚園」では「園の行事には保護者を招き、保育参加では保護者も共に活動することで、子どもの育ちを実感できる時間を大切にしている」とある。非常に重要な機会である。さらには、「保護者から」「見学者から」還元される感想や気づきが、園や保育者の希望や省察につながるという往還的視点が示されると尚良い。また項目「8,園児募集」では、「『変えられないものを受け入れる心の静けさ』と『変えられるものを変える勇気』、『その二つを見分ける知恵』を与え給えと祈りつつ歩む」とキリスト教保育ならではの視点で記されていて共感するが、「評価と改善に向けて」の内容としては、静けさと勇気を保障するために、そして、祈りつつ歩むことで具体的にどのような改善が見込まれるかを記す必要もある。この意味において、項目「社会貢献 1, 地域との連携」の実践と具体的記述は、非常に重要で参考になる。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

適切である。

四学年の園児が共に歩み、成長していく環境は相愛幼稚園だからこそできる目標であり、ぜひ今年度以降も続けてほしいことの一つである。

登園時刻の全学年統一、年長組のお泊り保育の計画など前例にとらわれず、常に創意工夫されながら改善・解決されている。

項目「2026年度 今後へ向けて」に記されている通り、「社会の変化や保護者の子育て観の多様化など、様々な現実に向き合う必要を感じる」は、保育・教育界全体の課題でもある。様々な現実に向き合うために様々な苦心・工夫をされていることが分かる。今後は相愛幼稚園に特徴的な財産でもある「多くのサポーター」を多様な保護者との対話に巻き込んで行く工夫「保護者と共にサポーターも」等が具体的に展開されると良いと思われる。

施設・設備について、防犯面も含めてフェンス・門扉の新設工事を計画していること、補助金をうまく活用し、省エネ効果を確認した上でエアコンの入れ替えを計画していることはとてもよいと思う。